

## インターチェンジに係る都議会質問に対する答弁について

### 〔平成15年第四回都議会定例会知事所信表明〕（抜粋）

環状方向の道路整備の遅れが、首都東京の集積メリットの発現を著しく阻害し、加えて、大気汚染を深刻化させていることは紛れもない事実であります。さらに、日本全体の交通ネットワークの形成を損ない、物流コストを増大させて経済に悪影響を及ぼしていることも明らかであります。都は今後とも、国民全体の利益を実現するため、圏央道の早期整備を促進してまいります。

また現在、環境影響評価の手続きを進めている外環道については、インターチェンジの設置を巡り様々な意見が出されておりますが、高速道路の機能を発揮する上で、インターチェンジは欠くべからざるものであります。都民にとっても、首都圏にとっても交通利便性が向上するよう、広く関係自治体や都民の意見を受け止めて検討すべきであると思っております。

### 〔東京都議会定例会議事録速報版〕（抜粋）

#### ■平成15年第4回定例会（速報版）12月10日 一般質問（吉野 利明議員）

##### ○六十七番（吉野利明君）

外環の整備に当たっては、都民の利便性向上のため、一定の区間にインターチェンジが必要であると考えます。しかし、国土交通大臣は、整備のスピードを重視し、都内においてはゼロインターで整備を進めると発表いたしました。高速道路をつくっても、インターチェンジがなければ都民にとっては使うことができず、トンネル内の排気ガス処理のための換気設備や、既存高速道路との連絡路などの施設だけがつくられることになってしまいます。このような計画では、幾らスピード重視とはいえ、地元としては賛成できるものではありません。外環道路整備に当たってのインターチェンジ設置について、方針をお伺いいたします。

##### ○都市計画局長（勝田三良君）

インターチェンジの設置についてでございますが、ご指摘のございましたとおり、インターチェンジがなければ、都内を通過するだけで、都民が利用できない道路となりまして、環状八号線など既存道路の交通量削減や環境改善などの効果も十分に発揮できません。このため、都といたしましては、インターチェンジは必要不可欠と考えておりまして、設置に当たっては、都民の利便性確保や時間短縮効果など、社会工学的な観点から検討するとともに、その際には幅広く地域の意見を聞いてまいります。

平成15年第4回東京都議会定例会で、国土交通大臣が記者会見において外環道をゼロインターで整備するとの発言に対し、都の方針を問う質問があった。その質問と勝田都市計画局長の答弁は上記のとおりである。新聞報道はこの答弁の一部を伝えたものである。

都としては外環にインターチェンジがないと、中央高速や首都高速道路のインターチェンジを使うことになり遠回りになる、別途料金が必要になるなど都民が使いにくい道路となるばかりか、既存道路の交通量削減や環境改善などの効果も十分に発揮できないことから外環の整備に当たってインターチェンジは必要不可欠なものであると考えている。

インターチェンジの設置に当たっては、移転戸数の多寡だけで判断するのではなく、都民の利便性や周辺道路の交通量削減など、社会工学的な観点から検討も必要であるとの認識を説明し、幅広く地域の意見を聞いていくと答えたものである。